

長野県松本養護学校整備基本方針【概要版】

1 松本養護学校の整備に係る現状と課題等

(1) 松本養護学校の概要

- ・開校時(S47)64人の児童生徒数は年々増加し、S56年には想定していた160人を上回る
- ・H10年頃から教室不足が深刻となり、軽量鉄骨造の校舎を増設、職員室や特別教室を教室へ転用
- ・H30年度からの中信地区特別支援学校再編整備計画によりH29年度292人からR3年度203人

(2) 松本養護学校に今後期待される役割（松本圏域南西部の知的障がい特別支援学校）

- ・知的障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた専門的で質の高い教育を提供
- ・地域の小・中学校等の専門性の向上を図り、知的障がいのある児童生徒が安心して身近な地域で学べる環境づくり



(3) 松本養護学校の学びに係る現状と課題

① 可能性が最大限伸びる学びに関して

《小・中・高等部の学び》

○ 生活単元学習

- ・児童生徒の想いに寄り添った活動や支援、教材等の工夫
⇒ 単元後半に向けて、児童生徒がさらに意欲的に取り組めるような授業づくり

○ 作業学習

- ・木工や農耕などの伝統的な作業学習により、多様な障がいのある生徒が自己の力を発揮
⇒ 産業構造の変化や生徒の興味に応じた作業学習の工夫

○ 教科学習・自立活動

- ・音楽と体育の授業は学級や学年等の集団で体育館や音楽室の他に廊下や普通教室等を活用
- ・個別学習の時間に個々の教育的ニーズに応じて教室を簡易なパーテーションで区切る
⇒ 児童生徒が教科の楽しさや専門性に触れ集中して学習できる授業づくりが必要

《ひまわり部の学び》

- ・医療的ケアの必要な子どもが6割を越えており、体調管理に配慮した日課や支援を実施
⇒ 安全安心な教育環境のもと外界認知や意思表示の力などの伸長を育む学習の充実

② 共生社会の実現に向けた協働の学びに関して

《交流及び共同学習・地域との連携》

- ・隣接する今井小学校や地域の方等との交流を定期的に行っており、交流を楽しむ姿
⇒ 地域とつながり、地域の方に主体的な姿を知っていただく日常的な交流の実施

③ 多様な教育的ニーズに対応する専門性の向上に関して

- ・障がいの多様化、重度・重複化への対応として、職員研修等を実施
⇒ 専門性の高い教員の育成やチームとしてのサポート体制の強化による教員個々の専門性向上

④ 身近な地域での学びの充実に関して

- ・幼稚園、保育園・小学校・中学校・高等学校等から、障がいのある幼児児童生徒の理解・支援、就学、進路に関する教育相談が多数
⇒ 松本養護学校の相談体制の強化と幼保・小・中・高等学校において特別支援教育を推進する人材の育成やすべての教職員の理解の浸透等に関わるサポートが必要

(4) 松本養護学校の環境整備に係る現状と課題

- ・H15～18年度に校舎の一部について屋根や給排水設備の改修、壁の木質化などの大規模改修
- ・老朽化による雨漏りや水道設備の不具合などが常態化
- ・児童生徒数は現在も開校当時の想定と比べて40人以上多い状況であり、開校当時の広さのままの体育館や音楽室等は十分な学習スペースの確保が困難
- ・障がいの多様化、重度・重複化が進む中、普通教室を改修した重度重複障がい教室や教室転用を繰り返したことにより点在化してしまった作業室など、教育環境の整備が未整備

- ① 小学部のみ職員室あり。中学部・高等部は教室内に教員の執務机を置いており、教室が手狭
- ② 小・中・高等部ごとにまとまった教室配置が困難で同じ部の教室が複数の棟に点在
- ③ プレイルームが全校（小・中・高・重度重複部共用）で1つ
部や学年単位で長期間の集団学習を行う際、教材等を常設できず活動に制限が必要
- ④ 体育館、音楽室が全校で1つしかない上に狭隘
使用可能な日時や時間帯、人数に制限がある上、人の往来のある中央ホールを代用
- ⑤ 小・中学部用の図工室を高等部の作業室に転用
- ⑥ 図書室の一部を多目的トイレに転用
複数の児童生徒が同時に閲覧できない
- ⑦ 個別学習の時間は、教室内を簡易なパーテーション等を活用

R2年度配置図



2 これからの松本養護学校の学校づくりのコンセプトと実現に向けた取組

※枠内はコンセプト実現のための具体的な方向性

コンセプト1 可能性が最大限伸びる学び

○ 知的障がいや重度重複障がいのある児童生徒が安心して通えます。

- ・1教室の人数を小・中学部は6人以下、高等部は8人以下の学級
- ・情緒が不安定になった児童生徒が落ち着ける部屋でのクールダウン

○ 友達と一緒に意欲的に学ぶ中で、表現力や創意工夫の力、社会性が伸びます。

- ・小・中学部専用のプレイルームや高等部専用の集会室でレクリエーションや行事に向けた授業
- ・作業室を近くに配置し、お互いの製品や取組を認め合える授業

○ 教科の専門性や楽しさに触れながら知識や技能、思考力、判断力、表現力が伸長します。

- ・専用の特別教室で個々の実態に合った専用の教材を使った授業

○ ICT機器を活用した分かりやすく楽しい授業により、意欲が向上し学びが深まります。

- ・1人1台端末や視線入力装置等のICT機器を活用した学習

○ 好きな図書教材を使った学習により、学ぶ喜びを味わい知的好奇心が向上します。

- ・ゆったりと好きな本を読み、ボランティアによる読み聞かせや大型スクリーンで動画視聴

○ 一人ひとりの特性に応じた個別学習を通して、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する力が伸びます。

- ・集中できる個別学習スペースで個別学習
- ・自己の保有する感覚機能が高められるよう、揺れや光、音などの刺激に集中できる環境で学習

○ 現代の生活様式に合った新しい寄宿舎で、生活スキルや社会性等の力を養います。

- ・現代の生活様式に合った設備を整えるとともに、安全安心で家庭的な心地よい環境づくり

コンセプト2 共生社会の実現に向けた協働の学び

○ 今井保育園や今井小学校、地域の方を身近に感じ共に学ぶ喜びを実感できます。

- ・今井小との交流（休み時間など、遊具や水遊びコーナーでの遊び）
- ・今井地区の住民との交流（地域交流スペースでの交流や作業製品販売会等）

○ 副学籍校交流などにより、地元の友達との相互理解が深まり所属意識が高まります。

- ・居住地の仲間との交流活動（音楽会等の行事参加、同時双方向型テレビ通話による日常的な交流等）

○ 自分の得意を生かした作業学習に取り組み、自立と社会参加につながる力が育ちます。

- ・地域の企業等と連携した生徒の興味関心や産業構造の変化に応じたサービス業等の作業種の導入

○ 地域で働くことのやりがいや地域の方と学ぶことの楽しさを実感できます。

- ・地元の農家の方と連携した農作物等の栽培や、切り干し大根、干し柿といった加工品の製造や販売
- ・学校で学んだビルクリーニングの技術を生かした公民館の清掃等

コンセプト3 多様な教育的ニーズに対応する専門性の向上

○ 専門性の高い教育が受けられます。

- ・専門性サポートチームを組織し、以下のようなサポートを実施
(計画的な研修、個別の指導計画の作成・評価・修正の助言、授業づくり・教材教具づくりの支援)

コンセプト4 身近な地域での学びの充実

- 知的障がいのある児童生徒が身近な地域で専門的な教育を受けられます。

地域のネットワーク構築

- ・ 松本養護学校がキーステーションとなり、地域の教育、医療、福祉関係者の連携を推進

3 松本養護学校の環境整備に関する基本的な考え方

(1) 設置場所について ～ 地域との連携による教育効果等を踏まえ、現地を設置場所に ～

① 地域の理解や意向

- ・ 開校にあたっての今井地区の住民の方々の理解と協力（農地の提供等）
- ・ 今後も交流の継続や拡充の意向あり

② 地域との連携

《同世代の友や地域の方との相互理解》

- ・ 今井保育園や今井小学校の子どもと休み時間などに遊具やビオトープで遊ぶ等の交流
- ・ 地域の方をお呼びして地域交流スペースでカフェや作業製品の販売会

《地域の方と協働して活動する意欲の高まり》

- ・ 地元の農家と協働で農作物等の栽培や販売等
- ・ J A今井の方を講師とした稲作り、ビルクリーニングの技術を活かした公民館の清掃等

③ 地域の公共施設の活用

- ・ 隣接する今井体育館や今井運動広場の借用により、整備費用の削減や校地の有効活用

(2) 施設設備の整備方法

- ・ 平成 15 年度から 18 年度にかけて一部校舎の内装や屋根、給排水設備の大規模改修を実施
- ・ 既存校舎を最大限有効活用するとともに、これからの松本養護学校の学校づくりのコンセプト実現に向け、必要な増築を含めた施設設備の整備を検討

(3) 国の特別支援学校設置基準との整合

- ・ 国の特別支援学校設置基準を踏まえ、松本養護学校の学びの改革の実現と、学びの改革を支える環境整備を推進